

総合的な探究（学習）の時間（TP）

主任：川原 一浩

（1）今年度の目標

- ① 自ら学び考える探究心や、関連する資料を収集・分析する能力を育成する。
- ② プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。
- ③ 将来のグローバルリーダーとして必要な知識や態度を育成する。

（2）主な取り組みの計画

- ①ア 1年次では、地域課題をテーマとした「讃岐学」を、2年次では、SDGsを軸に、自身の進路実現を見据え、興味・関心のあるテーマで「課題研究」をそれぞれ行う。グループごとに探究題や探究計画を立案し、データの収集・分析を行い、必要に応じて外部指導者の助言を受けながら探究を進める。
イ 3年次では、教科横断的な学習を通して、現代社会が直面している諸課題を考察し、レポートにまとめる。
- ②ア 1、2年次では、プレゼンテーションや質疑応答を含めた中間報告会や分野別発表会を実施する。
イ 3年次では、一授業ごとに発表する機会を設ける。
- ③ 3年間を通して、グローバルリーダーに必要な知識や態度を育成するための講演会を実施する。

（3）成果

- ①ア 1、2年次では、生徒は担当教員との協議を通して探究題や探究計画を立て、必要な資料等を収集・分析し、レポートにまとめた。
イ 3年次では、教科横断的な様々な現代の諸課題について、必要な資料等を収集・分析し、レポートにまとめた。分析について、文系生徒は主に文化的・地理的・歴史的アプローチからの検討を、理系生徒は、主に文化的・数学的・自然科学的アプローチからの検討をそれぞれ行った。
- ②ア 1、2年次では、それぞれ中間報告会及び分野別発表会を実施し、探究成果を発表した。「香川ビジネス&パブリックコンペ2020（地域公共部門）」において、グランプリを獲得し、行政や地域との連携を通して、変化に対応するだけでなく、変化を創り出す担い手としての素養を高めることができた。
イ 3年次では、教科書レベルを超える教科横断的な内容について、授業ごとに課題に対する考察や分析を行い、発表する機会を設けた。また、外部指導者（香川大学、吉原食糧株式会社、今治造船株式会社）を招聘し、現代の社会課題の解決に向けて考察する機会を設けた。
- ③ 創立記念講演会及び探究講演会を計画していたが、コロナ対応により中止した。

（4）課題と次年度以降の改善策

「総合的な探究（学習）の時間」の学習内容は、育成を目指す資質や能力が、生徒主体の視点で再構築されている。つまり、教員側の「何を教えるか」の視点ではなく、生徒側に立った「どのように学ぶか」の視点に変わり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が明示された。限られた時間で、最大限の効果を出すため、生徒自身が時間を管理し、かつ計画性と妥当性を伴った学習は必須であり、社会の要請でもある。「総合的な探究（学習）の時間」の取り組みは、進路実現に大きく関わっていることは言うまでもなく、「大学に進んで何を研究したいか」を具体化・意識化させる一翼を担っている。3年間を見通した授業内容やグローバル体験の機会の確保等、香川版SGH事業の蓄積を生かしつつ、不断の見直しを通して、改善を加えながら、より良い在り方を検討したい。